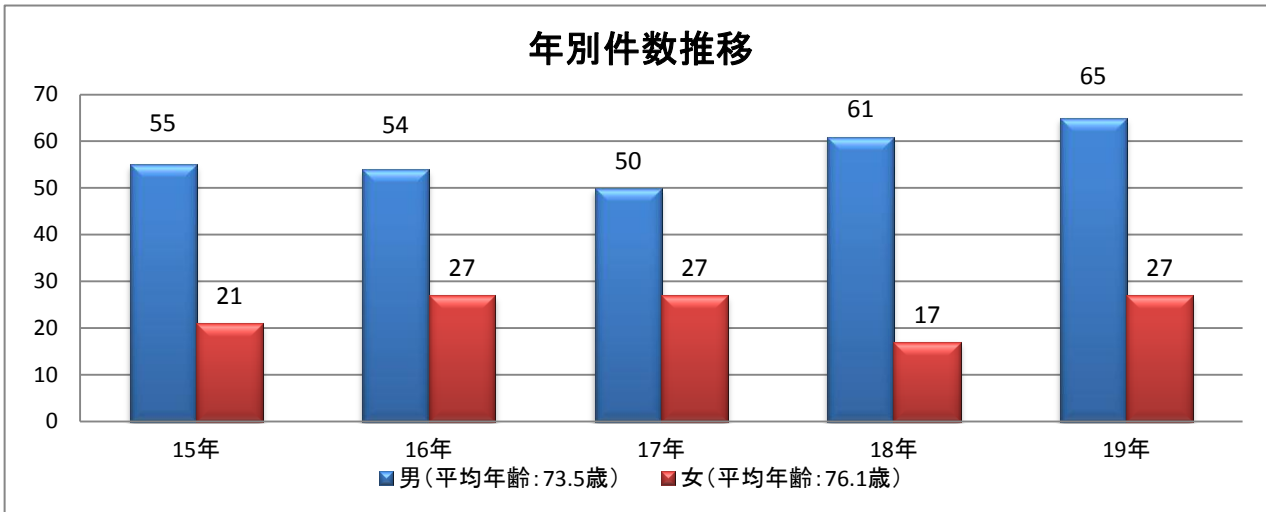
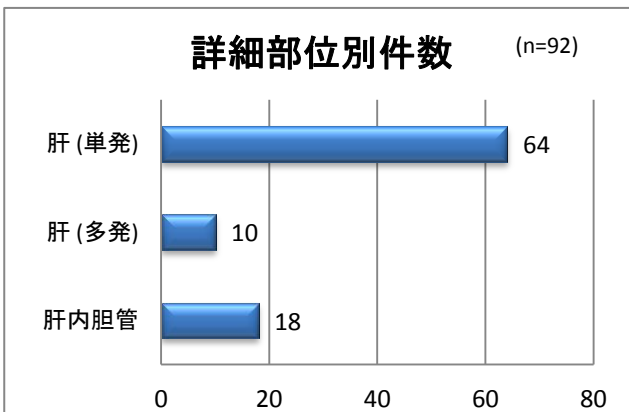


Ⅱ. 2019年集計＜部位別＞

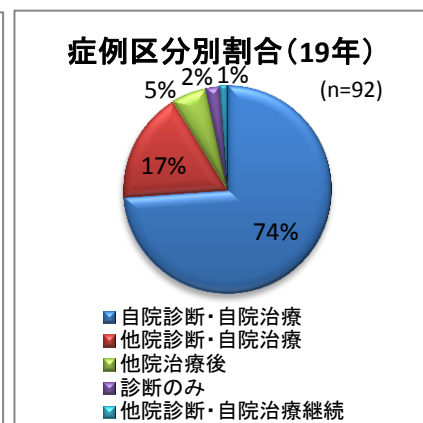
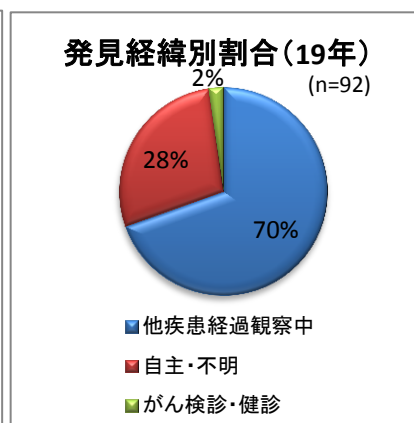
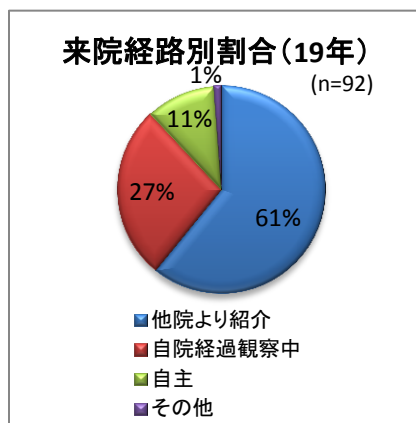
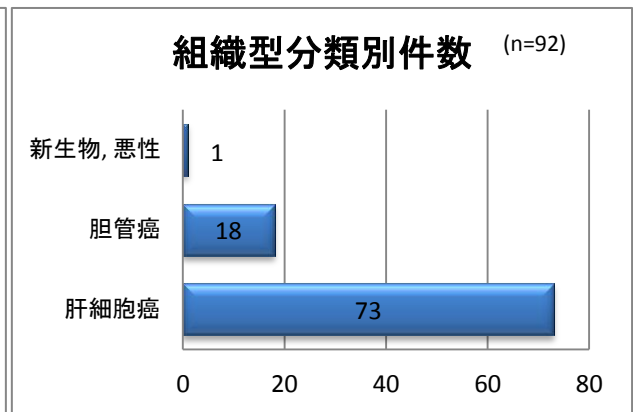
5. 肝



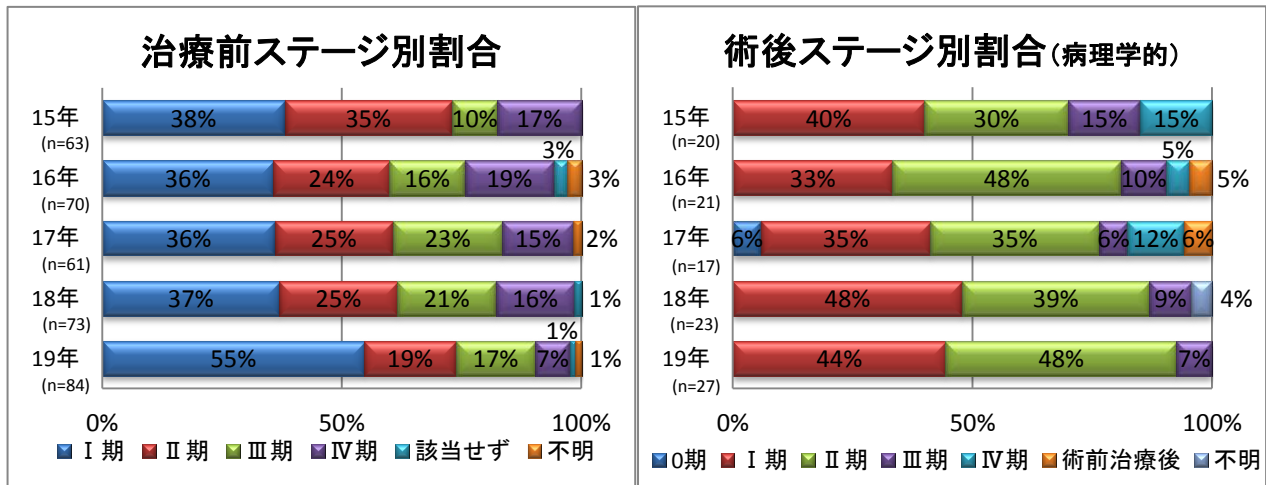
年別件数推移は男性の件数が増加している。



詳細部位別では「肝(単発)」の件数が最も多い。
組織型分類別は「肝細胞癌」の件数が最も多い。

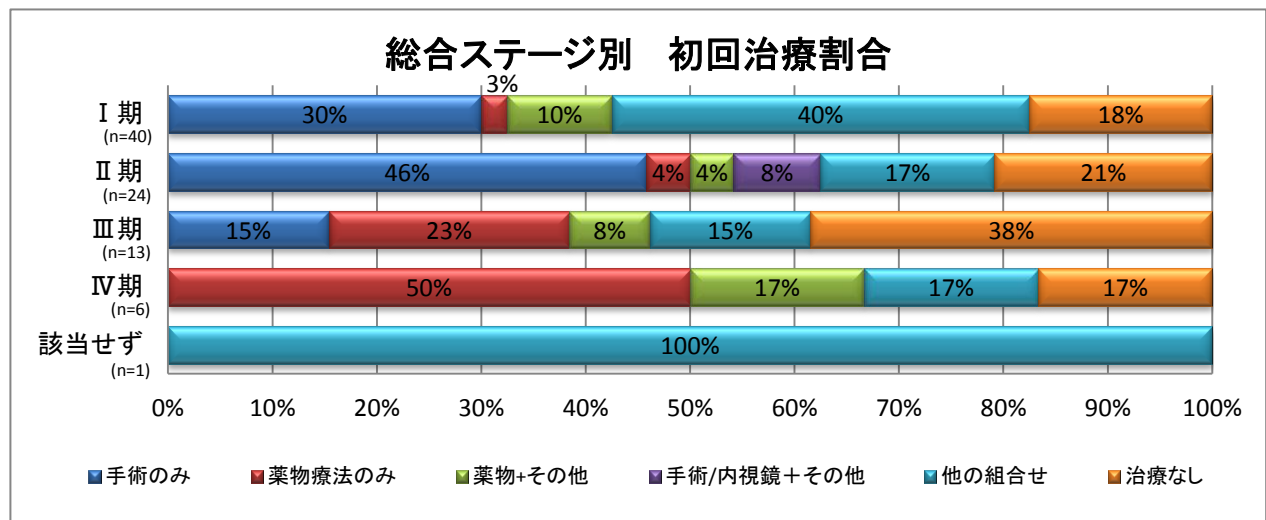


来院経路別割合は「他院より紹介」の割合が約6割を占めている。
発見経緯別割合は「他疾患経過観察中」の割合が7割を占めている。
症例区分別割合は「自院診断・自院治療」の割合が約7割を占めている。



治療前ステージは「I 期」の割合が増加している。術後ステージは「I 期」と「II 期」の割合が多くを占めている。

※「術前治療後」には、多発肝がんで一部の病変にRFA(ラジオ波)治療を行った後、他の病変を切除したという症例であった。



I 期では「他の組合せ」の治療が多く、これにはRFA(ラジオ波)治療やTAE(動脈塞栓)治療を行う症例が含まれる。また、全ステージで「治療なし」の症例が見られ、これには高齢等の理由により経過観察を行う症例が該当する。